

# くすりのしおり

内服剤

2020年06月改訂

薬には効果（ベネフィット）だけでなく副作用（リスク）があります。副作用をなるべく抑え、効果を最大限に引き出すことが大切です。そのために、この薬を使用される患者さんの理解と協力が必要です。

## 商品名：ラベプラゾール Na 塩錠 10mg 「オーハラ」

主成分：ラベプラゾールナトリウム (Rabeprazole sodium)

剤形：淡黄色の錠剤、直径 6.9mm、厚さ 3.6mm

シート記載：ラベプラゾール Na 塩 10mg 「オーハラ」, 10mg, プロトンポンプ阻害剤, Rabeprazole Na 10mg 「OHARA」



## この薬の作用と効果について

胃の壁細胞にある酵素を阻害し、胃酸分泌を抑えます。

通常、胃潰瘍や十二指腸潰瘍、逆流性食道炎および非びらん性胃食道逆流症などの治療に用いられます。

またヘリコバクター・ピロリの除菌の補助にも用いられます。

また、低用量アスピリン投与時における胃潰瘍または十二指腸潰瘍の再発抑制に使用されます。

## 次のような方は使う前に必ず担当の医師と薬剤師に伝えてください。

- ・以前に薬を使用して、かゆみ、発疹などのアレルギー症状が出たことがある。肝障害がある。
- ・妊娠または授乳中
- ・他に薬などを使っている（お互いに作用を強めたり、弱めたりする可能性もありますので、他に使用中の一般用医薬品や食品も含めて注意してください）。

## 用法・用量（この薬の使い方）

- ・あなたの用法・用量は（：医療担当者記入）
  - ・胃潰瘍、十二指腸潰瘍、吻合部潰瘍、Zollinger-Ellison 症候群：通常、成人は 1 回 1 錠（主成分として 10mg）を 1 日 1 回服用しますが、症状により 1 回 2 錠（20mg）を 1 日 1 回に増量されることがあります。服用する期間は胃潰瘍、吻合部潰瘍では 8 週間まで、十二指腸潰瘍では 6 週間までです。  
逆流性食道炎：通常、成人は 1 回 1 錠（主成分として 10mg）を 1 日 1 回服用しますが、症状により 1 日 1 回 2 錠（20mg）に増量されることがあります。服用する期間は 8 週間までです。また、プロトンポンプインヒビターによる治療で効果不十分な逆流性食道炎では、1 回 1 錠（10mg）または 2 錠（20mg）を 1 日 2 回、さらに 8 週間服用します。ただし 1 回 2 錠（20mg）1 日 2 回は重度の粘膜傷害がある場合のみです。  
<維持療法>再発・再燃を繰り返す逆流性食道炎では 1 日 1 回 10mg を服用します。また、プロトンポンプインヒビターによる治療で効果不十分な逆流性食道炎の維持療法では、1 回 10mg を 1 日 2 回服用します。
  - ・非びらん性胃食道逆流症：通常、成人は 1 回 1 錠（主成分として 10mg）を 1 日 1 回服用します。服用する期間は 4 週間までです。
  - ・低用量アスピリン投与時における胃潰瘍または十二指腸潰瘍の再発抑制：通常、成人は 1 回主成分として 5mg を 1 日 1 回服用しますが、効果不十分の場合は 1 回 10mg を 1 日 1 回服用します。
  - ・ヘリコバクター・ピロリの除菌の補助：通常、成人は 1 回 1 錠（主成分として 10mg）、アモキシシリン水和物として 1 回 750mg（力価）およびクラリスロマイシンとして 1 回 200mg（力価）の 3 剤を同時に 1 日 2 回、7 日間服用します。なお、クラリスロマイシンは、増量されることがありますが、1 回 400mg（力価）1 日 2 回までです。プロトンポンプインヒビター、アモキシシリン水和物およびクラリスロマイシンの 3 剤投与によるヘリコバクター・ピロリの除菌治療が不成功の場合には、これに代わる治療として、通常、成人は 1 回 1 錠（10mg）、アモキシシリン水和物として 1 回 750mg（力価）およびメトロニダゾールとして 1 回 250mg の 3 剤を同時に 1 日 2 回、7 日間服用します。
- いずれの場合も、必ず指示された服用方法に従ってください。
- ・腸溶錠ですので、かんだり、くだいたりせずに服用してください。
  - ・飲み忘れた場合は、気がついた時にできるだけ早く飲んでください。ただし、次に飲む時間が近い場合は、飲み忘れた分は飲まないで 1 回分を飛ばし、次に飲む時間に 1 回分を飲んでください。絶対に 2 回分を一度に飲んではいけません。
  - ・誤って多く飲んだ場合は医師または薬剤師に相談してください。
  - ・医師の指示なしに、自分の判断で飲むのを止めないでください。

## 生活上の注意

### この薬を使ったあと気をつけていただくこと（副作用）

主な副作用として、発疹、かゆみ、蕁麻疹、便秘、下痢、腹部膨満感、吐き気、頭痛、貧血（階段や坂を上がる時の動悸、息切れ、頭痛）などが報告されています。このような症状に気づいたら、担当の医師または薬剤師に相談してください。

まれに下記のような症状があらわれ、[ ]内に示した副作用の初期症状である可能性があります。

このような場合には、使用をやめて、すぐに医師の診療を受けてください。

- ・顔面蒼白、呼吸困難、蕁麻疹 [ショック、アナフィラキシー]
- ・全身倦怠感、皮下・粘膜下出血、発熱 [汎血球減少、無顆粒球症、血小板減少、溶血性貧血]
- ・全身倦怠感、食欲不振、皮膚や白目が黄色くなる [劇症肝炎、肝機能障害、黄疸]
- ・発熱、から咳、呼吸困難 [間質性肺炎]
- ・広範囲の赤い発疹、発熱、口腔・眼粘膜のただれ [中毒性表皮壊死融解症、皮膚粘膜眼症候群、多形紅斑]

**以上の副作用はすべてを記載したものではありません。上記以外でも気になる症状が出た場合は、医師または薬剤師に相談してください。**

**保管方法 その他**

- ・乳幼児、小児の手の届かないところで、直射日光、高温、湿気を避けて保管してください。
- ・薬が残った場合、保管しないで廃棄してください。

**医療担当者記入欄**

年 月 日

より詳細な情報を望まれる場合は、担当の医師または薬剤師におたずねください。また、「患者向医薬品ガイド」、医療専門家向けの「添付文書情報」が医薬品医療機器総合機構のホームページに掲載されています。

SI⑥